ある経験から

49年10月，待望の自家が完成し名古屋市外の日進町に引越してきた．思い立った時は石油ショックの影響で，建築資材の値上りや品不足で施行を引受けたプレハブ会社からは早く意思決定をするように，その催促も急であった．住宅金融公庫や会社の住宅貸付金を申込むなど借金を頼りにかかったわけであるが，そもそも日頃の心がけの悪さが身にしみたものであった．

「家をつくるなら3軒目でやっと満足する」などといわれているが，私も入居してみて“しまった”と思った．

南側の庭が思ったより狭く，しかも南側の雑木林に背の高い松が数本あって，冬は日当りが悪いということがわかった．また，地理的に買物やバスの便が悪く，当然車がほしくなるのであるが，駐車場をつくる余地を残しておかなかったので，車の必要性を感じた時，どうにもやりきれない失敗感に襲われたものであった．

建築費の値上りのほうに気をとられ，敷地の平面図だけを見て設計したところに失敗の原因があった．建築予定地の周辺の地形，環境をよく調べて，どういう生活になるのかをもっと時間をかけ調査すべきであった．日当りの具合は季節によって大幅に変わることでもあり，四季の環境を調べるべきであった．日頃，「問題のある現場を目と足で確かめろ」と後輩の方々に悟ったような顔をして講釈をしていた私がはずかしかった．

家屋の形式はベランダが有効に使える陸屋根型にした．しかし，入居して3年もたたないうちに雨漏りがはじまり，最近屋根を張替え小康を保っているが，天井のしみは残っている．

これも陸屋根の構造を技術的に検討し，経験者の意見も聞いてみるべきであった．

五十の手習いというが，前に申し上げたような事情から，52歳にして一大決心をして自動車学校に通った．大学にいっている娘は夏休みを利用して，楽しみながら簡単に免許をとってきたので，運動神経に関してはいささか自惚れていた私は「なに娘よりは僕のほうがましだよ」と家内にいって，通学をはじめた．ところが，冬の寒い間52時間バッチリ乗せられ，指導員からは「卒験はまだかね？」などと冷かされながらの悪戦苦闘であった．まったく不思議なくらいに体がいうことをきかなくなっている．

それから，カローラの中古車を求め通勤や買物に結構利用し，時には娘と交替で運転しながらドライブを楽しんだり，いつのまにか私も車社会の一員となってしまった．

自分で車をもつまでは「車社会」「道路問題」などという話題は何か他人事であるという意識があった．むしろ道路工事を見るたびに“こんなことに税金を湯水のように使って……”，また“自動車メーカーの保護策か？”などと反感すらもったものである．

ところが毎日車に乗る生活に入ってみると，“この道は拡げてもらわないと動きがとれない！”とか“この信号は位置がまずいな！”など道路事情に対して問題意識をもつようになった．いい車を見ると羨ましくなるし，車道にヨタヨタ出てくるお年寄りを見ると，それを防止する方法はないものか，と考えてもみる．信号機の自動制御の問題も最近になってようやくその背景を理解できたような気がする．

問題の背景を知り，その本質をつかむためにはその渦中に一歩踏み込んでみることが大切であるということをしみじみと感じている．

先日，韓国の電力会社から配電関係の事務機械化について調査にみえた．韓国の電力需要は年率約15％の伸びで日本の高度成長時代を上回る勢いである．給料は日本の4分の1くらいで土曜休日制もなく，実によく働いている．また，日本の知識・技術を吸収し，日本に追いつこうと一所懸命である．それは日本が戦後アメリカを手本にして経済復興へ邁進したそれと似たものを感じた．韓国の品質管理に対する勉強ぶりについては唐津一さんに聞いたことがあったが，その御当人たちに会って生の話を聞いてさらにびっくりした．

日本では円高倒産，社会の高齢化問題，エネルギー危機など暗い話題が多い今日この頃であるが，韓国が日本の経済上のライバルになる日は，そう遠くはないと思える．

日本は経済の高度成長を成しとげ，石油ショックからもようやく立ち直った安定感，むしろ円高問題などでアメリカからライバル視され満足感すらあるのではなかろうか．OR学会も法人化され一応基盤もできた．しかし，安定化してしまうと発展性を失うともいわれる．われわれはもう一度原点に帰って，駈出し時代の危機感を取りもどす必要があると思う．　(M.M.)

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．